

# 2017年度 第一回 漁業・おさかなセミナー

日時：2017年12月1日（金）13:30～16:30

会場：（公社）日本水産資源保護協会 会議室（東和明石ビル3F）

（東京都中央区明石町1-1 03-6680-4277 地下鉄「築地」より徒歩5分

会場地図 <http://www.fish-jfrca.jp/06/map.html>

## 「人口減少下&グローバル下のお魚の消費拡大の秘策は？」

コミュニケーション視点での新規開拓、魚食文化と流通改革・消費拡大・国際展開

【趣旨】 多くのマスメディアで、水産物消費の減少、資源の減少等多岐にわたって我が国漁業の将来にたいする不安視された情報がある。このうち、今回は、日本人がおさかなを食べなくなったことに対する秘策について考えてみることにする。

大手広告代理店での活躍後、ISO認定支援関係法人設立に大活躍されたシマダ・コミュニケーションズ主宰 島田 武氏に、長い企業活動の中で培ったビジネス・コミュニケーションにより、「企業の利益は、コミュニケーション活動が創出している」との基本的な考えのもと、いかに商品を消費者に届けるか、特に新規開拓・販売戦略などの企業が行なう、ビジネス・コミュニケーションの評価について報告していただき、

次に、資源管理、水産物流通、市場構造、「海業」等多岐にわたる漁業経済関連の調査研究に大活躍されていますが、特に、最近では、魚食文化に関する講座を開設する等水産物の流通・消費に関する調査研究に業績のある東京海洋大 教授 婁 小波氏に、水産物需給現場に何が起き、それらを踏まえて、今後の水産物流通革新のあり方について報告していただいたのち、**セミナー参加者全体で考えてみよう！**

### 【 プ ロ グ ラ ム 】

コーディネーター：水産資源回復管理支援会事務局長 岡本 勝

開 会

報告 13:30～15:30 （報告時間1人60分[質疑5～10分を含む]）

第1報告 「コミュニケーション視点での新規開拓」

・・・シマダ・コミュニケーションズ主宰 島田 武氏

第2報告 「魚食消費の動向と水産物流通の革新を考える」

・・・・・・東京海洋大教授 婁 小波氏

休憩

総合討論 15:40～16:30 聴衆からの質疑、討論など

閉 会

入 場 無 料 ☆どなたでも参加できます

（会場に限りがありますので、参加希望を事前に FAX,メールでご連絡を！）。

連絡先：いわし普及協会 TEL03-3500-1291/FAX03-3500-1292 [iwasikyukai@bz01.plala.or.jp](mailto:iwasikyukai@bz01.plala.or.jp)

水産資源回復管理支援会 TEL03-3549-1530/FAX03-3542-8950

主催 NPO水産資源回復管理支援会・(一社)いわし普及協会

# 講師略歴、報告要旨

島田 武 シマダ・コミュニケーションズ主宰

<略歴> 1943年東京都生まれ  
最終学歴 1965年(昭和41年)3月 早稲田大学卒業  
広告企業に勤務後、2009年4月1日 ISO/IEC 17025 認定取得支援の任意団体 JAB 試験所協議会 創設に参加  
2013年4月1日 一般社団法人 JAB 試験所協議会(現:RMA) 法人化(常務理事)  
ビジネス活動50年(2016年)を期に、シマダ・コミュニケーションズとして、ビジネス活動を振り返り纏めることに  
チャレンジ中

<報告テーマ> 「ビジネス・コミュニケーション視点での新規開拓」

<報告要旨> 企業の利益は、コミュニケーション活動が創出している。コミュニケーションの基本は人と人が面接・面談し、目と目を合わせ、心と心で意志・考えを伝え、互いに確認や納得をすることです。本来は双方向が基本であると考えています。

例えば、広告と云うコミュニケーション活動の場合は一方通行のように見えますが、全く同じで、気に入らない広告の場合は商品の購入に結びつかない場合も十分あり得ると考えています。

コミュニケーションは空気みたいにあまりにも当たり前すぎて誰もそれが社会生活の中核をなしているということを意識していません。井戸端会談的な場で、気に入らない。性格が悪い。態度が悪い。云いすぎよ。嬉しかったな。感動を与えてくれた。癒された。参考になった。などと様々な会話が出ます。これがコミュニケーションの評価なのです。企業が行なう、ビジネス・コミュニケーションの評価は顧客(消費者)の発注量・購入量・金額等が最も解りやすい評価です。

婁 小波 東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門 教授

<略歴> 1962年生まれ  
最終学歴 京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了  
1992年 4月 近畿大学農学部助手 1995年 4月 同 講師  
1997年 4月 鹿児島大学水産学部助教授  
1999年 10月 東京水産大学助教授  
2004年 3月 東京海洋大学教授

<報告テーマ> 「魚食消費の動向と水産物流通の革新を考える」

<報告要旨> 1990年代以降世界の水産物消費市場が急拡大している。スシやカリフォルニア・ロールマキなどに代表される和食文化の普及が、こうした世界的な魚食ブームを形成する原動力の一つとなってきたことは周知の事実である。ところが、この和食文化を育んできた日本の魚食文化が、いま深刻な危機に直面しているといわれている。供給面では、海洋環境の悪化や資源の減少がつづき、少子・高齢化などを背景に担い手が不足し、国内漁業の生産ポテンシャルが急速に低下してきている。需要面では、「魚離れ」が指摘されつづけて、肉などの競合商品による市場代替が進行している。とくに、肉類の一人当たり年間消費量が水産物を逆転してから10年が経ち、これまでに良質な動物性たんぱく質を供給してきた水産物と肉類との消費格差はますます広がっている。果たして、水産物需給の現場においていま何が起き、そうした状況を打開するためにどのような流通変革が起きているのか。本報告では、こうした点に焦点を当て、今後の水産物流通革新のあり方について皆様とともに考えていきたい。

## 切 り 取 り

参加希望者は下記FAX様式かメール [iwasikyokukai@bz01.plala.or.jp](mailto:iwasikyokukai@bz01.plala.or.jp) にてご連絡ください。

満席で参加不可の場合のみ、折り返しご連絡いたします。

セミナー参加希望申し込み様式(事務局FAX: 03-3500-1292)

参加者氏名		同伴者人数	
参加者所属組織名			
連絡先 TEL/FAX 番号			
メ	モ		